

祝

辭

卒業生の皆さん、保護者の皆さま、ご卒業
おめでとうございませす。

心からお喜びを申し上げませす。

また、校長先生をはじめ、生徒に対し、あ
たたくご指導いただきませす。諸先生方にも
PTAの代表として心からお礼申し上げませす。

さて、卒業生の皆さんは、もう、自分の人
生の将来の目標が具体的に見えてきたでしよ
うか。小学校、中学校、高校と進むにつれ

自分のやりたいことが見えてきたのではない
かと思えます。就職される方も 進学される
方も もう一年受験を頑張る方も どうか
自分で決めたいことに向かって全力で
進んでください。

私も 高松高校の卒業生ですが ちようと
皆さんの頃 父がやっていた弁護士や検事
裁判官等の法律家になりたいと思うようにな
って法学部を受験しました。

しかし私立には合格したものの第一志望の国立大には合格できませんでした。

私が浪人しようかどうか迷っていたとき父に「お前は司法試験を目指すんだらう。それならもう一年大学受験の勉強をするより大学に入って早く司法試験の勉強をはじめたほうが良いのではないか。」と言われました。

私には法律家になりたいという明確な目

標がありましたので 父のアドバイスに従う
ことにし 私立大に入学して さっそく司法
試験の勉強をはじめ 幸いにも 卒業した年
に司法試験に合格することが出来ました。

皆さんも 目標を決めたらそれに向かって
全力投球をして欲しいと思います。

必ず結果はついてくるはずですよ。

私は 検事を五年やった後 現在は 父と
一緒に弁護士の仕事をしています。

弁護士の仕事は 人と人とのトラブルの中
に入っていく仕事ですのので 決して楽な仕事
ではありません。

離婚 破産 相続 場合によっては殺人事

件までさまざまな事件に出会います。でも
皆さんが抱えているトラブルをひとつひとつ
解決していくことで 人様の役に立っている
のだという実感がもてる仕事だと思います。

皆さんにも自分が社会の中で役に立ってい

ると実感できるような仕事について頑張ってもらいたいと思います。そしてそれは仕事の中身の問題ではなくて 自分にとってそういう実感できるかどうかということが重要なことだと思えます。

最後になりますが、これから的人生を送るにあたって 皆さんには 「座右の銘」をもってもらいたいと思います。

座右の銘とは 常に自分の心に留めておき、

戒めや励ましとする言葉を言います。

皆さんには 座右の銘がありますか。

私は この四月から香川県弁護士会の副会長をすることになり 先日 会長をすることになった先輩弁護士とともに マスコミへの記者会見を開きました。

もちろん記者からの質問は 私にではなく新会長に集中しておりましたが 質問の最後に 記者の一人から 「新会長の座右の銘は

何ですか？」という質問がされました。

そのとき私は ドキッとしました。

私の座右の銘は 何だろう？

そのとき私には 自分の座右の銘をすぐに
思い浮かべることはできませんでした。

新会長はしばらく考えて 「あきらめな

いこと」 「七転び八起き」と答えられていま

でしたが やはりちよつと不意をつかれたよう
でした。

実は 私は 曹洞宗の道元禪師が使ったと言われる「切に生きる」という言葉が好きなのでした。

「切に生きる」の「切」という字は 切るという字ですが 「しきりに。心をこめて」という意味もあるそうで 「切に生きる」とは、「今を大切に生きてよう」ということです。まだ これから先のことをいろいろ不安がっても仕方がない。

過ぎたことをいろいろ悔やんでも仕方がない。
い。

今でできるやりたいことを精一杯やろう。そしてやりたいことをやれる幸せを感じようという事です。

この「切に生きる」というのが 今の私の座右の銘だと言えます。

また 例えば 松下幸之助さんの座右の銘は「失敗することを恐れるよりも 真剣で

ないことをおそれたい」であり また 陸上の野口みずき選手が 「走った距離は裏切らない」 だそうですが その人と なりがあふれていると思います。

これからの人生 楽しいこと そうでないこと いろんなことがあると思います。 皆さんも是非 「座右の銘」をもって その気持ちを絶えず忘れずに過ごされることを期待します。

皆さんが 伝統ある高松高校の卒業生として、
実りある人生を過ごされることをお祈り
し お祝いの言葉とさせていただきます。
頑張ってください。

本日はご卒業おめでとうございませす。

平成一九年三月六日

香川県立高松高等学校

PTA会長 小早川 龍司